

■同窓会長挨拶■

創立 70 周年に向けて、学校と同窓会とで「共創」していく機会を！

同窓会長 川嶋文信 (19 回生)



今年度の会報発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

先ず忙しい合間を縫ってこの会報の作成に尽力頂いている方々に深く感謝申し上げます。又多数の方々より出筆の労を賜り御礼申し上げます。更に会報を見てお解りのように、数多くの同窓会の皆様や関係者の皆様より広告掲載を通じての支援を頂き心強く思う次第であります。

初今年は 3 月 1 日に高校の卒業式、4 月 8 日に中高の入学式が執り行われ、私も参加させて頂き同窓会の活動の状況を説明させて頂きました。新しいステージに羽ばたいて行く学生達、新たに中高での生活をスタートさせる学生達を拝見し、又新たな年度が始まることを実感すると共に併せて人の営みの繰り返しの中にそれぞれの新たな感動が生まれん事を切に祈念した次第です。東京では 6 月 18 日に新しい学生達の歓迎会が催され、多数の若手を中心とした同窓生が参加してくれて、新入生に様々なアドバイスをし新たな同窓生の輪が広がる機会となりました。

この様な集まりは各地で開かれていて、本会の親睦・互助の活動が広まっている証として嬉しい限りであります。

同窓会活動を通じて様々な附設生に接しますと、先輩、同期、後輩を問わず正に個性的で魅力ある方々に巡り合うことが出来ます。余り群れる事に興味が無かったとか機会が無かった私としては新鮮且つ嬉しい歓びであります。そして母校を心より愛する方々が大勢いらっしゃいます。限られた任期ではありますが、微力ながらより魅力ある同窓会に育てて参りたいと思いますので引き続きご支援・ご鞭撻の程宜しく願い申し上げます。

現状の同窓会の抱える課題は幾つかございますが、会の目的の一つである親睦・互助は前述の通り順調に推移しております。同期はもとより様々な機会を通じて回生を超えた上下の交流も各支部での交流の深化や例えば東京に於ける 11 回生と親子より年齢の離れた 47 回生との親密な交流の息吹は今後益々発展して行くものと確信しております。もう一つの会の目的である母校の発展に本会として更にどの様に関与して行くかについては、吉川校長が仰る母校創立 70 周年(2019 年)に向けてこの先 10 年、5 年を見据え学校と同窓会とで「共創」して行く機会を設けることが重要と考えます。又 2018 年(平成 30 年)に 90 周年を迎える大学側の意向も聴取しながら取り進めることが肝要と思います。母校の発展を会の一つの目的とする上で、極めて優秀な、磨けば光る生徒達が数多く在籍するこの学び舎の方針に沿い、金銭的援助のみならず現状も行っている社会人による課外授業の更なる充実等皆さまの叡智を活用して実践して行けば良いのではと思います。

この度の総会・福岡支部総会で 27 回生の掲げられた「共に生き、共に語らう いのちの讃歌」とその前の案内状の名文を一つの拠り所として更なる会の発展に努めたいと思いますので宜しく願い申し上げます。